

一品一品に想いを込めて ステンレス意匠鋼板を極める

日鉄ステンレスアート(株)は、日鉄ステンレス(株)のステンレス鋼板 SUS304 を用いて、さらに美しい輝きや色彩を与えたステンレス意匠鋼板をつくっています。素材の限らない可能性を追求したステンレス意匠鋼板のものがつくりの世界を紹介します。

夢と感動を与える製品の開発

——ステンレス意匠鋼板は、どのように使われているのでしょうか。

金子 日鉄ステンレスアートは1961年の創業以来、ステンレス意匠鋼板の供給を通じて豊かな社会と快適な暮らしの実現を目指してきました。現在、業界シェア50%以上を占めています。用途の6割はエレベーターやエスカレーターの昇降機で、国内メーカー全社に採用されています。ほかに建材、店舗・住設機器、厨房機器などに使われています。

——どのような技術が駆使されているのでしょうか。

安藤 3つのコア技術をベースに多種多様なステンレス意匠鋼板をつくり出しています。第1は表面仕上げです。ステンレス鋼板の表面に研磨加工を施して、光沢や陰影を表現します。あるいはエッチングで微細な凹凸を付けて質感を表現しています。エッチングは標準柄が約60種類あり、オーダーメイド柄も製作しています。輝き方は模様の付け方で異なります。まさにアートの世界です。



日鉄ステンレスアート(株)
金子 渡
代表取締役社長



日鉄ステンレスアート(株)
鎌田 収
常務取締役



日鉄ステンレスアート(株)
安藤 敦司
取締役(工学博士)

第2のコア技術は色彩コーティングで2種類の製品があります。1つが化学発色法を用いたファインカラーです。クロム酸と硫酸の混合溶液に浸して、透明な酸化皮膜を薄く成長させます。膜の厚みによって、光が反射するとき、ある特定の色だけが強く見える光の干渉現象が生じます。表面仕上げとの組み合わせによって風合いのある彩色が可能で、樹脂や塗料のように紫外線による変色がなく、耐食性も良好です。

もう1つは真空スパッタリング法を用いたノイエスです。ステンレス鋼板の表面に窒化チタンの膜を薄くコーティングして色をつけています。膜の構成を変えることによって、バイオレット、ゴールド、オアシャンネイビーなど、鮮やかな13色が出せます。窒化チタンの膜は安定で紫外線による変色がなく、耐疵付き性も良好です。

第3のコア技術は機能性コーティングです。ステンレス意匠鋼板は目立つところ、手に触れるところに使われます。指紋などの汚れが付くと目立つため、ファインガード3という耐指紋・耐汚染コーティングを開発しました。親水性のある透明なガラス質の膜でコーティングすることによって、汚れを水で浮き上がらせて簡単にふき取ることができます。

——色調の発想はどのように生まれるのでしょうか。

鎌田 これまでではお客様の要望に添えてデザインを提案していましたが、今ではデザイナーや設計者とともにコンセプトからつくり上げて、それを形にするようになりました。色調の流行り廃りは周期的にやってきます。鮮やかなものが流行るときもあれば、シックなものが流行るときもあります。デザイナーや設計者と積極的に議論を交わし、アンテナを張って情報収集しています。こうしたなか、黒でもっと黒いものという潜在的なニーズのトレンドを捉え、ステンレス製品で最も黒いBLACK96の開発に至りました。

——今後の抱負をお聞かせください。

金子 まだステンレスの可能性をすべて引き出されていません。日鉄ステンレスアートの使命は汎用材を使いながら、どうやって価値を高めるかです。環境面でステンレスはリサイクル性に優れています。環境にやさしい材料です。製品もまた長寿命でサステナブルです。そのポテンシャルを最大限に発揮して、常に技術を高め、生産性と品質の向上に挑戦し、夢と感動を与える製品の開発を進めていきます。

輝きや色彩の美しさで高級感を演出



個人邸キッチン



クリスピー・サラダワークス
六本木ヒルズ店(東京都港区)
阪急三番街店(大阪府大阪市)



東京ミッドタウン日比谷
(東京都千代田区)

ヘアライン+ブラックステンレス
BLACK96がキッチンの面材、レンジフード、戸棚に採用。

ヘアライン+ノイエス・
モスグリーン+ファインガード3が食品
テーブルカウンター、食品棚、収納扉に採用。

アンティークパイプ+ノイエス・
ブロンズ+ファインガード3がエレベーター
の扉、枠、操作パネルなどに採用。

クラフトマンシップ 素材の限らない可能性を追求



- ① カラー発色槽に一定時間浸漬したファインカラーの色調を確認。
 - ② 均一な光沢を出すため、ステンレス鋼板を研磨。
 - ③ ステンレス鋼板に高精細な図柄を転写するフィルム画像の出来上がりを確認。
 - ④ ファインガード3をコーティングした外観を確認。
- 工業製品でありながら、一人ひとりの技術や感性がステンレス意匠鋼板に宿っています。